

千葉県知事 森 田 健 作 様

要 望 書

【令和元年度第1回定例会】

千葉県町村議会議長会

要 望 事 項

第 1 総合行政の充実強化について

- 1 「成田空港の更なる機能強化」に係る地域づくりについて
- 2 県内水道水の安定的な供給について

第 2 健康福祉行政の充実強化について

- 1 子ども医療費助成の拡充について

第 3 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

- 1 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）及び
県道南総一宮線の整備促進について
- 2 県道茂原白子バイパスの建設促進について
- 3 県道南総一宮線水沼地先の改良促進について

【河川・海岸】

- 4 二級河川夷隅川河川整備について

第 4 教育行政の充実強化について

- 1 国史跡の保存整備について
- 2 教職員の働き方改革に対する小規模町村への支援につい
て

第1 総合行政の充実強化について

1 「成田空港の更なる機能強化」に係る地域づくりについて

平成30年3月13日に「成田空港に関する四者協議会」において「成田空港の更なる機能強化」について合意されたことにより、特定空港周辺航空機騒音対策特別措置法（特騒法）により土地利用等の規制される区域が拡大することが想定される。

規制される区域の拡大は、企業誘致や住宅地整備など、地域の発展に必要な事業に多大な影響を及ぼすことが懸念される。

については、道路整備、河川改修、土地利用規制の緩和等による地域振興策及び地域活性化策を講じるよう要望する。

2 県内水道水の安定的な供給について

県内の水道料金は、地理的、地形的要因から、地域間で格差が生じており、料金格差の是正を図るため、該当市町村には市町村水道総合対策事業補助金が交付されているが格差は解消されていない。

また、今後、人口減少社会の到来による水需要の減少や施設の老朽化等、水道経営状況に多大な影響を与える事態が想定されることから、県内水道の統合・広域化が検討されており、これに係る経費は県及び関係市町村の負担とされている。

水道水の供給については住民の日常生活の根幹であり、地方創生の観点からも居住地域によって格差を生じさせるべきではない。

については、県の責務として問題に取り組み、安定した経営基盤のもと、住民の負担軽減を図るとともに、安全な水道水の供給に努めるよう要望する。

第2 健康福祉行政の充実強化について

1 子ども医療費助成の拡充について

子ども医療費助成制度について、県は入院の助成対象を中学3年生まで、通院・調剤の助成対象を小学3年生までとしている。

しかし、現状は、自治体が独自に上乘せ助成を実施しており、自治体間で助成内容に格差が生じている。

この格差を解消することは、子育て世代の経済的負担を軽減するという国の方向性とも合致し、少子化社会においては重要な施策である。

については、次の事項について要望する。

- (1) 通院・調剤の助成対象を入院の助成対象と同様に中学3年生まで拡充すること、及び国において全国一律の制度として実施するよう、国に積極的な働きかけを行うこと。
- (2) 高校生までの現物給付について検討するよう、国に働きかけを行うこと。

第3 県土整備行政の充実強化について

【道 路】

1 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）及び 県道南総一宮線の整備促進について

地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）は、長南町から茂原市間の約7.2kmが整備区間となり整備が進められている。

しかし、茂原・一宮間の約4kmは未だ調査区間であり事業に着手していない状況である。外房地域の都心からのアクセス向上及び活性化を図るためには、本道路の果たす役割は大変重要であり、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）と一体となって双方の機能が最大限発揮されるものである。

については、茂原・一宮間を整備区間に格上げし、全約11.2kmの整備促進を図るよう要望する。

また、長生グリーンラインと国道128号を結ぶ予定である、県道南総一宮線（一宮バイパス）の道路改良事業についても、地域防災の観点からも非常に重要であり、整備促進、早期完成を要望する。

2 県道茂原白子バイパスの建設促進について

主要地方道茂原白子線は、茂原市本納地区から白子町の海岸部までを結ぶ東西道路軸であり、国道や鉄道のない白子町では非常に重要な道路である。

しかし、県道茂原白子バイパスが平成5年に事業化され25年経過するにもかかわらず、工事の進捗率は事業費ベース22.0%、距離ベース11.1%と極めて低い。そのような中、首都圏中央連絡自動車道(東金JCT～木更津IC)開通に伴い、種々観光振興策が練られ、本路線整備への期待が益々高まっているが、県道五井本納線と接道する国道128号線近辺については未だに工事着手がなされていない状況である。

については、県道茂原白子バイパス実施計画を早期に作成のうえ、九十九里有料道路とのアクセス道路として、また、災害時の避難道路としての重要性を鑑み、県道茂原白子バイパスの早期完成を要望する。

3 県道南総一宮線水沼地先の改良促進について

長南町水沼地先の県道南総一宮線は、狭隘で待避所による大型車の交互通行や見通しの悪いカーブが存在する危険な状況にあり、市原市境の南郷トンネルでは、乗用車同士の交互通行が不可能で、観光バスの通行にも支障をきたしている。

この道路は、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の市原鶴舞ICにアクセスする主要道路であり、観光及び物流、また圏央道の整備効果を地域に波及させる重要な役割を担っている。

については、南郷トンネルをはじめとした道路改良事業の促進を要望する。

【河川・海岸】

4 二級河川夷隅川河川整備について

近年は、地球温暖化等による異常気象により、大型台風や集中豪雨が原因で河川の氾濫による浸水被害や土砂災害が国内で毎年発生しており、各地で甚大なる被害をもたらしている。

夷隅川は、勝浦市にその源を発し、数多くの河川をあわせ大多喜町の市街地を經由していすみ市において太平洋に注いでいる二級河川で、昭和45年及び同46年と続けて大雨による浸水被害が発生し、特に昭和45年の集中豪雨では甚大な被害が発生している。

については、地域住民の安心・安全を確保し、活力あるまちづくりのため、河川整備計画を早期に策定し、事業化を図るよう要望する。

第4 教育行政の充実強化について

1 国史跡の保存整備について

文化財の重要性、価値は一市一町だけのものではなく、広く県民の大切な資産でもある。

しかしながら、文化財保護事業の実施は大きな財政負担を伴うため、手厚い補助金がなければ、財政規模の小さな自治体は、事業実施を断念せざるを得ない状況である。

については、重要な史跡に対する十分な保護措置等の事業を、円滑かつ継続して進めるため、県からの事業補助率をアップすること、及び補助金限度額の撤廃を要望する。

2 教職員の働き方改革に対する小規模町村への支援について

現在、教職員の長時間労働など労働環境については社会的問題となっている。教職員のこれまでの働き方を見直し、児童生徒に対して効率的な教育活動を行うため、教職員の働き方改革の推進が求められている。

「教員アシスタント職員の配置」や「校務支援システムの導入」は、その具体的対策であるが、それらに係る経費は小規模町村にとって多大な財政負担となる。

については、教職員の働き方改革の推進に財政力による格差が生じることのないように財政的支援を講じるよう要望する。